

- 中山間地域である最上地域では、冷涼な気候を活かして「にら」を生産し、平成5年より「達者de菜」の統一ブランドで出荷し高い評価を得ているが、**長期安定出荷が課題**。
- 主力品種「パワフルグリーンベルト」の**生産が減少する夏場の抽苔期、秋季の収穫に適した品種の導入を拡大**。
- 夏季の傷み防止や生産量の向上等の**安定生産を推進**。
- その結果、**にらの販売額は10億円を上回る主力産地**。
- 高齢化が進み**生産者は減少**しているが、**規模を拡大する農家が増え、後継者の育成が急務**。(H29～)

具体的な成果

目標を達成するための普及活動

1 夏どりと秋どりの生産安定と拡大

各専用品種は多くの生産者に導入された

■ 夏どり品種の拡大

夏どり専用品種「西安大葉」の栽培は、出荷後の傷み防止のため予冷庫が整備されている地域に拡大。

■ 秋どり品種の拡大

秋どり専用品種「タフボーイ」は最上全域で導入が増加。

2 安定生産の推進

指導の結果、品質管理、下葉調整等が徹底され、夏季の傷みは減少し、品質が向上。

出荷前農薬残留分析において基準値の超過は無。10億円を上回る主力産地に。

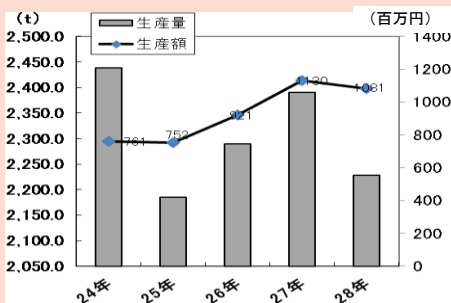


図 にら生産量と生産額の推移



圃場巡回



秋どり専用品種実証圃

1 夏どりと秋どりの生産安定と拡大

■ 関係機関と連携した活動

JA、最上産地研究室と連携して、春の栽培講習会等において、試験成果を紹介し、夏どり専用品種「西安大葉」、秋どり専用品種「タフボーイ」栽培を生産者に呼掛け。

■ 実証圃を設置して普及拡大

夏どり、秋どり各専用品種実証圃を金山町に設置し、生育状況を把握し、その栽培を普及。

2 安定生産の推進

■ 適期適作業の推進

最上広域野菜振興協議会にら部会、各JAと連携して、講習会、現地巡回、「栽培だより」を通して、適期収穫や株の適期更新、農薬適正使用、夏場の肥培管理、荷傷み対策を指導し、安定生産を支援。

■ 農薬飛散防止対策の徹底

管内の全JAが農薬飛散防止のための旗立運動に取り組んだ

普及指導員だからできたこと

- ・ 日頃から連携している先進農業者、JA、研究機関、県行政等の関係者と連携を密にし、ブランド産地としての役割を果たしつつ、更なる産地強化を進めることができた。

山形県

安定生産による「にら」のブランド力強化

活動期間：平成25～31年度

1. 取組の背景

中山間地域である最上地域では、冷涼な気候を活かし、水田転作の重点作物として、「にら」を導入している。平成5年より「達者 de 菜」の統一ブランドで出荷し、市場からは高い評価を得ているが、長期安定出荷が求められている。

そこで、主力品種「パワフルグリーンベルト」の生産が減少する夏場の抽苔期、秋季の収穫に適した品種の導入を拡大する必要がある。また、夏季の傷み防止や生産量の向上等安定生産を推進する必要がある。

2. 活動内容（詳細）

（1）夏どりと秋どりの生産安定と拡大

①関係機関と連携した活動

各JA、最上産地研究室と連携して、春の栽培講習会等において、試験成果を紹介し、夏どり専用品種「西安大葉」、秋どり専用品種「タフボーイ」栽培を生産者に呼掛けた。

②実証圃を設置して普及拡大

夏どり、秋どり各専用品種実証圃を金山町に設置し、生育状況を把握し、栽培普及に努めた。



圃場巡回研修会



秋どり専用品種「タフボーイ」実証

(2) 安定生産の推進

①適期適作業の推進

最上広域野菜振興協議会にら部会、J A全農山形、各J Aと連携して、講習会、現地巡回、栽培だより（5回）などを通して、適期収穫や株の適期更新、農薬適正使用、夏場の肥培管理、荷傷み対策を指導し、安定生産の支援を行った。

②農薬飛散防止対策の徹底

管内の全J Aが農薬飛散防止のため、にらの圃場に収穫7日前頃に黄色の旗を、収穫中は赤色の旗を掲げるという「旗揚げ運動」に取り組んだ。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 夏どりと秋どりの生産安定と拡大

①夏どり品種の拡大

夏どり専用品種「西安大葉」の栽培は、出荷後の傷み防止のため予冷庫が整備されている地域に拡大した。

②秋どり品種の拡大

秋どり専用品種「タフボーイ」は最上全域で導入が増加した。

(2) 安定生産の推進

指導の結果、品質管理、下葉調整等が徹底され、夏季の傷みは減少し、品質が向上した。出荷前農薬残留分析において基準値の超過は無かった。

にらの販売額は10億円を上回る主力産地となっている。



女性による丁寧な調整作業

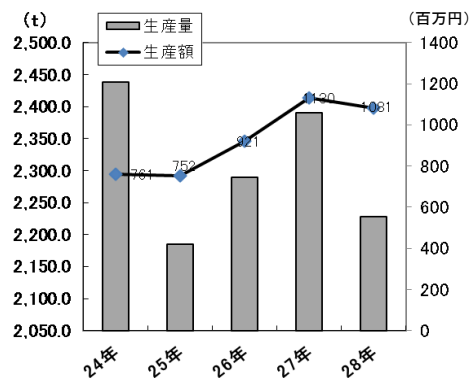


図 にら生産量と生産額の推移

4. 農家等からの評価・コメント

夏どり・秋どりの専用品種の導入でこれまで出せなかった時期の生産が増えています。特に、秋どりは今後も期待できる作型となっています。

更なる出荷時期の延長や期間中の安定出荷数量確保により、「達者 de 菜」ブランド力の安定強化を図るため、継続した支援をお願いします。

(最上広域野菜振興協議会にら部会 部会長)

5. 普及指導員のコメント

普及活動では、最上広域にら部会や高い技術力を持つ生産者ならびに研究機関（最上産地研究室）と連携しながら、新品種や新技術の導入を進めています。既存のにら生産者への支援の他、若い担い手育成のため29年度に若手にら研究会を立ち上げ、情報交換や研修会を通して栽培技術の習得や栽培面積の拡大を誘導し、産地規模の維持拡大と活性化を図る予定です。

(最上総合支庁農業技術普及課 主任専門普及指導員 加藤久雄)

6. 現状・今後の展開等

新規栽培が増加している秋どり専用品種「タフボーイ」のさらなる普及拡大に努めるとともに、新植圃場から生産をあげるための栽培管理指導を行い、秋季の生産量増加を目指す。

夏季の傷み対策や安全安心なにら生産（県版GAPの推進）については、最上広域野菜振興協議会にら部会、JAと連携して引き続き指導支援を行う。

高齢化が進み生産者は減少しているが、規模を拡大する農家が増えており、後継者を育成していく必要がある。